Inews+卒業号

発行
2018年度臨時号 平成31年2月28日
大阪府立生野高等学校 自治会広報部

「私は周りの人に恵まれていたなぁと思います。」

71期生への感謝と別れの言葉を述べて、今年度のInews+を閉じます。

卒業式において、71期生一人一人の名が呼ばれ、皆は高校生活の思い出とともに返事します。何気ない日常で得た友人との大切な思い出を胸に「ありがとう」と、式歌を歌う。3 年間の生活を終え、あなたたちは今何を思うのか。答辞及び送辞は本来、卒業式でしか聞けないものですが、特別にここに載せたいと思います。

答辞

白梅の香り麗しく、どこか包容力をもつ春風を背に、今日、私たち七十一期生は「平成」という年号とともに、一つの節目を刻もうとしています。

私たちの高校生活は、三年前の入学式から始まりました。その日も今日のような清廉な空気に包まれていて、着慣れない制服に戸惑い、とても緊張していたことをはっきりと覚えています。周りのみんながとても凄そうに見えて、まさに四面楚歌と言わんばかりの状況でした。そんな中、幕を開けた高校生活。他のみんなと仲良くなれるか不安でしたが、そんな不安はすぐになくなりました。声をかけてみるとクラスのみんなはとても気さくで、親しみやすく、さらにそれぞれが輝くものを持っていました。それはスポーツの才能であったり、勉学の才能であったり、まさに「みんな違ってみんないい」という言葉が具象化されたようでした。

友達の意外な一面を見ることができた体育祭。普段はおとなしい友人が、必死に騎馬戦に臨む姿、百人に迫る応援団をまとめようと必死に声を枯らす姿、学年種目で声を合わせて跳んだことは本当に良い思い出です。どのシーンもすばらしいもので、まさに「カメラを止めるな」の連続でした。

体育祭とともに大いに盛り上がった文化祭。輝く個性をもちよって模擬店をしました。他クラスの完成度に驚いたり、特殊な味付けに笑ったりもしました。そんな中、自クラス店舗の想像を超える忙しさにみんなフラフラになりながらも、やり終えたときの充実感は「ハンパなかった」です。

部活動は、私たちを大きく成長させてくれました。先輩に憧れた一年生。少しずつ自覚を持ち始めた二年生、部活の中心になった三年生。たくさんの記憶が蘇ります。楽しいこともたくさんあったけれど、苦しいこともたくさんありました。試合で負けてしまった時。ケガで競技ができなかった時。自分の目標に届かなかった時…。そんな時に励ましてくれたのは、いつも自分のそばにいた仲間たちでした。一緒に話をしているだけでポジティブな気持ちになれました。仲間の姿を見ると、「自分もまだまだ頑張れる」、「負けたくない」と思いました。時には、くだらない話をし、時にはケンカもしました。一緒に涙を流したことだってありました。そんな日々を共に過ごすうち、仲間の存在がいつの間にか当たり前になりました。楽しい毎日をありがとう。

また、部活動をする中で、たくさんの方に支えてもらいました。家族は誰よりも応援してくれました。自分たちがしたいことは後回し…毎日お弁当を作ってくれました。

顧問の先生には、どうしたら上達するかを教わりました。人として大切なことを教わりました。悔しくて落ち込んでいる時、勇気づけていただきました。先生の言葉以上に説得力のあるものはありません。厳しい言葉も私のためを思っておっしゃって下さった、ということが今ならわかります。「毎日部活動をできていることは、当たり前ではない。」先生のおかげで、部活動に真剣に向き合ってこれました、ありがとうございました。

部活動で学んだこと、それは一つのことを最後までやり切るという精神です。もちろん、納得のいかない結果で終わることもあります。しかし、強い想いをもって最後まで取り組んだことは、必ず人生の糧になります。これから先、どんなことに対しても自信をもって臨んでいきましょう。

そして、在校生の皆さん。今、自分のしたいことに夢中になってください。それは、部活動に限ったことではありません。一つ大きな目標を掲げると、日々の行動が変わります。時間の使い方が変わります。考え方が変わります。今しかできないことに精一杯になってください。

この三年間、振り返ってみると、やっぱり私は周りの人に恵まれていたなぁと思います。

十八年間私を温かく見守り続けてくれた家族。毎日のお弁当、部活動の応援、どんな時も私のことを一番に考えて、いつだって「自分のやりたいことをやればいい」と背中を押してくれました。その優しさに甘えてばかりで、生意気なことを言ったり、わがままや不満をぶつけることもありました。それなのに家に帰ると毎日笑顔で「おかえり」と迎えてくれる家族の温かさに何度も救われました。家族の支えがあったからこそ今の私がいます。面と向かっては言える気がしないので、この場を借りて言わせてもらいます。「今日まで育ててくれてありがとう。この先もたくさん迷惑をかけると思いますが、これからもよろしくお願いします。」

そして、七十一期のみんな。毎日毎日くだらないことでバカ笑いしたね。友達のことを自分のことのように喜んだり、悔しがったり、時には怒ったり、一緒に涙したこともあったね。いつもはふざけている友達も、私が本当に困っている時は何度も何度も助けてくれました。何度も何度も支えてくれました。普段の私を知っている人は、今、私がこの場所に立って真面目に答辞を読んでいることに驚いていると思います。私もびっくりしています。でも、こんな私が今こうやって答辞を読めていることも、こんなに楽しい高校生活を送ることができたのも、みんながいたからです。みんなの優しさ、明るさが私の高校生活をこんなに輝かせてくれました。みんなと過ごした、なんてことない一日一日が今では私の宝物です。みんなに出会えて本当によかった。たくさんの思い出をありがとう。

そして先生方。人生の大先輩として、学習面だけでなく、これから社会で生きていくうえで大切なことを教えてくださいました。勉強嫌いの私を根気強く励ましてくれ、校則に文句を言う私に「社会に出ると意味分からんルールに従う必要もある」とやけにリアルなアドバイスをくれました。叱られることもたくさんありましたが、休み時間や放課後には友達のような距離感で一緒に盛り上がり、悩み相談には真剣に乗ってくださいました。センター前に体調を崩して焦っている私に言ってくださった「大丈夫、俺が言うんやから、大丈夫」の言葉、

本当に心強かったです。やっぱり先生方の存在は大きいなぁと感じました。まだまだ未熟な私たちですが、三年前の入学式から少しは「成長したな」と思っていただけると嬉しいです。

明日も教室に行けば、これまでと変わらない日常がある気がします。「授業だるい、眠い、お腹すいた」という文句。教室で暴れる男子、イケメンに騒ぐ女子。そんなあたりまえの日常は今日でおしまいです。いろんなものに出会い、いろんな経験をした高校生活。あっという間の三年間。長い人生の中のたった三年間。でもこの三年間は私たちにとって大きな、大きな三年間でした。

この先、たくさんの挫折や困難を経験すると思います。そんな時は、生野高校で過ごした、数えきれない思い出と誇りを胸に、「自分」を大切に、精一杯進み続けたいと思います。　“ありがとう”。

平成三十一年二月二十八日

送辞

寒さもややゆるみ、美しき弥生の空近づく今日の良き日に、新たな門出を迎えた七十一期生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。

生野高校に入学された日から卒業を迎える今日までの軌跡を、今ゆっくりと心の中で辿っておられることと思います。

思い起こせば、私たちの前には常に先輩方の凛々しい姿がありました。

団長の溌溂とした選手宣誓から始まった体育祭。先輩方の歌う力強い応援歌の迫力に、団員の士気も上がり、雨粒も落ちるのをためらうほど、熱気にあふれていました。壮大な応援合戦の裏で、緊張している私たちに、団を盛り上げようと優しく気さくに話しかけて下さったこと、本当に嬉しかったです。

どの競技にも全力で真剣に取り組む先輩方の姿は、私たちもこんな風になりたいと思うほど、華やかで活気があり、本当に輝いて見えました。

先輩方の行事に臨む姿勢は文化祭でも変わりませんでした。雨天をものともしない笑顔あふれる接客で模擬店は大盛況、ステージでのパフォーマンスは本当に素敵で、本気で楽しんでおられる先輩方の姿に感動し、憧れの気持ちを抱きました。
「先輩方が居て下さって本当に楽しかった」
後夜祭を締めくくる花火のような、力強い輝きを持った先輩方が、文化祭の雰囲気を作り上げていたのだと、今でも感謝しています。

部活動での先輩方は、いつでも頼れるリーダーであり、大きな目標でもありました。

越えられない壁にぶち当たったとき、厳しくも丁寧に優しく教えて下さり、本当に頼もしく感じました。ともに練習に打ち込んだこと、大きな目標を達成して喜びを分かち合ったこと、そのすべてが先輩方との大切な思い出です。

引退されてから、先輩方の大きさに気付き、頼り切っていたのだと実感しました。
先輩方と共有した時間が、かけがえのない宝物であり、今も変わらず心から尊敬し続けています。

先輩方が形作ってこられた「生野高校」。行動をもって示して下さったその輝かしい伝統を、今しっかりと受け取り、より良いものにしてまた次の世代へ、必ず引き継いでいくことをお約束します。どうか私たちを信じて託してください。

本日、卒業の日を迎えられた先輩方は、夢を手にするため、それぞれの道へ進もうとされています。先輩方がこれから歩んでいかれる道は決して歩きやすいものばかりではないかもしれません。大きな壁に阻まれ、全てを投げだしそうになることもあると思います。ですが、この生野高校で得た経験や過ごされた時間が、投げ出す手をそっと引き止めてくれるはずです。これからも、先輩方にしか生み出せないこの世の光を追い求めてください。

私たちも、先輩方一人ひとりが刻み、残されてきた確かな希望を目標に、これからの高校生活を歩んでいきます。

卒業された後も、ちょっと一息つきたいときには、先輩方の原点の一つであるこの生野高校にお立ち寄り下さり、私たち在校生に会いに来て下さると嬉しいです。

「本当に、ありがとうございました」

これが私たち在校生が先輩方にお贈りする、一番伝えたい言葉です。

先輩方の新しい日々のご健康とご活躍をお祈りし、この言葉をもって私たちよりの最後の御挨拶と致します。

平成三十一年二月二十八日

人と人が出会うという事。それ自体が奇跡の賜物であり、その奇跡の連続があなた達 71 期生を構成している事を忘れてはならない。出会えた。それだけで十分価値のある人生を歩めているだろう。いくら離れ離れになろうとも、その結ばれた確かな縁は決して解けることはありません。

これから歩みだす新たな世界は、より壮大で輝かしいものであると思います。幾度の試練を乗り越え、大きく成長した姿を見せに生野高校へ寄り道してもらえると嬉しい。

卒業おめでとう！　では、良い人生を！